

双六にある昇神の滝

飛驒山脈から流れる双六川は、水がきれいで、夏でも冷たい川です。その支流、井ノ口谷にある滝が「昇神の滝」です。昇神とは、神籬（ひもろぎ）などの臨時齋場で祭祀を執り行う場合、降神の儀で、神様を迎え、昇神の儀で神様を送るそうです。『ぎふの名瀑名峡』によると、滝の上部は隠洞という地名があり、その昔、神様が、この滝を昇ってお隠れになったという伝説から「昇神の滝」と言われます。

双六川本流から五〇〇メートルほど、井ノ口谷を上がると滝を見ることが出来ます。滝の落差は、約三十メートルで水量もけっこうあります。滝の上部は、上宝火砕流の溶結凝灰岩と呼ばれる岩石で、滝の下部は、花崗閃緑岩と呼ばれる岩石でできています。

この滝は、二種類の岩石の境にあり、上の硬い岩石が侵食さ



昇神の滝

(飛驒地学研究会 中口清浩)

れにくく崖として残るため、その硬さの違いによりできたと考えられます。上部の上宝火砕流堆積物は、約六十四万年前、高山市奥飛驒温泉郷の福地南方にあった火山から噴出した。大量の火砕流堆積物は、その自重と熱さで溶け直して、溶結凝灰岩という岩石になります。道のバラストに使われるように比較的硬い岩石です。

一方、花崗閃緑岩（花崗岩）は、地下深いところでマグマがゆっくり結晶して岩石となったものです。岩石を作る鉱物が大きめで風化しやすい性質があります。この花崗閃緑岩は、数億年前にできたものです。風化してもろい岩石になります。実際の滝で、二種類の岩石の違いを見てください。